

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ハグプラス		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 21日		～ 令和 7年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 19
○従業員評価実施期間	令和 7年 1月 25日		～ 令和 7年 2月 3日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	実務経験が長い職員や保育士、心理士等の専門職による幅広い視点から支援を行っている。	児童一人ひとりの変化に対して、常に気を配り支援者間で一日の振り返りを行うことで、細やかな情報共有を心がけている。保護者対応にも活かしている。	家庭環境にも目を向ける必要があることから、他事業所及び相談支援専門員等の福祉サービスだけでなく、学校や行政等の関係機関と十分な連携をとり、多面的な側面から適切な支援に繋げていく。そのために行政や学校で開催される支援会議へ積極的に参加する。
2	SNS等の活用により、保護者及び職員間でのコミュニケーションがスピーディーにとることができる体制である。	文章のみで共有が困難な事案に関しては、都度ミーティングの時間を確保し、速やかに改善できるように取り組んでいる。	職員が参加しやすいように場合によって、オンラインでの会議も実施する。
3	法人内でグループホーム、就労継続支援事業所を展開しており、児童の卒業後の進路についても保護者の希望に応じて情報提供を行うことができる。	社内会議等を通して、就労についての情報収集を行っている。高学年や卒業が近い児童に対して、活動の中で就労系の事業所を利用したり公共機関へ外出するなどに取り組み、集団活動に取り組み進路についての意識を高めている。	卒業後の進路について、見学や体験の機会を設けたり、児童の特性について進路先に繋げるなど細やかな助言を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全な支援実施の為の様々なマニュアルやそれに対する職員研修、児童を含めた訓練等について、保護者への周知不足がある。	毎月の広報誌で訓練等についても実施内容を紹介しているが、楽しいイベントの一つと理解されている保護者が多い。	毎月発行している広報誌の活用を継続していくが、目的と訓練であることを明記して理解してもらおう。
2	非常勤職員が支援に必要な情報を十分に得られる時間が確保できていない場合がある。	毎月、会議を行っているが、非常勤職員については、出席者が少ないため、共有不足がある。	保護者からの要望や児童の状態変化、支援内容の変更などがあつた場合は、業務前後に確認する時間を設けたり、オンラインによるミーティング等の機会を活用し支援者全員で改善について検討する。
3	異学年児童が多く、発達特性にも差があるため、外出行事等の集団活動において、支援員が不足していると感じることがある。また、児童の安全を確保するために活動範囲が限定される場合がある。	職員の定着は課題であると考えられる。学校の下校時間や家庭の事情等によるイレギュラーな対応が必要な場合が多く、時間的な余裕がないため学びの機会が少ない。	利用児童個々の変化に対応できるよう、参加可能な研修を活用したり、実践現場での経験を通して支援員一人ひとりの支援力の向上を図る。新人職員が実務経験を重ねながら安心して学べる職場環境を計画的に作っていく。